**羽仁 もと子 （はに・もとこ）**

**１、プロフィール**

わが国最初の婦人新聞記者。雑誌「家庭之友」を創刊。「婦人之友」と改題し、友の会を結成、生活合理化運動を展開する。また教育者として自由学園を創立した。

＜生没＞

1873（明治６）年９月８日～1957（昭和32）年４月７日

＜代表作＞

「羽仁もと子著作集」全21巻

＜青森との関わり＞

八戸市長横町に生まれ、16歳までを過ごす。一時八戸小学校の教師を勤めた。

**２、作家解説**

明治６年９月８日、八戸市長横町松岡登太郎、美和の長女として生まれる。八戸小学校高等科を卒業、勉学の志強く、祖父とともに上京し、新設の東京府立第一高等女学校２年に入学する。明治22年、もと子16歳の時である。翌年築地明石町教会で洗礼を受ける。

第一高女卒業後、明治女学校高等科に入学。巖本善治と出会い、「女学雑誌」の校正をしながら学ぶ場を与えられる。26年１月から８月まで郷里にもどり、八戸小学校と盛岡女学校の教師を経て再び上京する。明治30年、自ら報知新聞社の校正係に応募、採用される。明治32年、谷干城夫人の素顔を取材した連載記事が高く評価され、正式な記者として採用された。わが国最初の婦人記者の誕生である。

明治34年、報知新聞の記者、羽仁吉一と結婚。長女説子が生まれた36年４月には雑誌「家庭之友」を創刊する。のち「婦人之友」と改題し、実生活の中から身近な問題を取り上げて生活の改善をめざす雑誌として、多くの読者を獲得していく。また「家計簿」や「主婦日記」を創案、「子供之友」「新少女」など次々に家庭改良をめざした出版を続けていく。

大正10年４月にはキリスト教的自由主義に基づく「自由学園」を創設。生徒の人格を尊重し、真の自由を確立するという理念のもと、26名の生徒が集まった。

昭和５年「婦人之友」愛読者による「友の会」第１回大会を東京で、以後家庭生活合理化展覧会を全国28都市で開催。世界新教育会議参加、東北農村合理化運動、北京生活学校開校はじめ数多くの活動を意欲的に展開していく。国内にとどまらず、世界中に愛と自由、協力の精神をもって新家庭、新社会を建設していくという思想は確実に実践され、受け継がれている。

「思想しつつ、生活しつつ、祈りつつ」 昭和32年４月７日、羽仁もと子は83歳の生涯を終えた。

**３、資料紹介**

〇「羽仁もと子著作集」全21巻

図書

1927（昭和２）年～1983（昭和58）年

180㎜×125㎜

「婦人之友」創刊以来執筆した作品を著作集として刊行。第１巻「人間篇」から「自由、協力、愛」までの20巻。さらに創刊80周年記念として第21巻「真理のかがやき」を出版。羽仁恵子による評伝と年譜。装幀は平福百穂。羽仁もと子の全思想と生活の記録を知ることができる。